

JENESYS2019 ASEAN 派遣プログラム第7陣の記録

テーマ：日本文化交流，派遣国：シンガポール

1. プログラム概要

対日理解促進交流プログラム JENESYS2019 の一環として，日本の大学生 16 名が 2020 年 2 月 4 日～2 月 12 日の 8 泊 9 日の日程でシンガポールへ派遣され，日本の政治，経済，社会，文化，歴史に関する理解促進，および日本の魅力等の積極的な発信を目指し，「日本文化交流」をテーマとしたプログラムに参加しました。

本訪星団はシンガポール訪問中，日本の在外公館，日本商工会議所や日系企業・現地企業等を訪問・視察し，日本とシンガポールとの関係性および日本の国際貢献に関する知見を深めました。またシンガポール市内の様々な施設や商業地等を見学した他，大学交流やホームステイ体験を通じて，シンガポールの文化・社会に対する理解を深めました。

一行はプログラム中，シンガポールにおける対日理解の促進，日シンガポール間の信頼関係増進の基盤強化を目的として，各々の関心事項や体験について SNS を通じて対外発信を行い，帰国前の報告会では，訪星経験を活かした帰国後のアクション・プラン（活動計画）についてグループ毎に発表しました。

【参加者所属先・人数】 創価大学 5 名， 東海大学 6 名， 明治学院大学 5 名

2. 日程

2 月 4 日（火） 訪星

2 月 5 日（水） 【オリエンテーション】 JTB アジア・パシフィック本社
【視察】 Japan Creative Centre (JCC)
【表敬】 在シンガポール日本国大使館
【視察】 シンガポール市内（バトル・ボックス，マウント・フェーバー）

2 月 6 日（木） 【視察】 Mitsubishi Heavy Industries Asia Pacific Pte. Ltd.
【視察】 シンガポール日本商工会議所

2 月 7 日（金） 【視察】 現地教育財団視察
【学校交流】 シンガポール国立大学：意見交換，プレゼンテーション

2 月 8 日（土） 【視察】 Marina Barrage（シンガポールを代表する淡水貯水池）
【視察】 Gardens by the Bay
【ホームステイ】

2月9日(日) 【視察】シンガポール市内(インド人街, アラブ人街)
【視察】チャイナタウン, ブラス・バサー/ブギス地区

2月10日(月) 【視察】JTBアジア・パシフィック本社
【視察】スカイ・グリーン社
【視察】シンガポール都市再開発庁(URA)

2月11日(火) 【成果報告会】
離星

2月12日(水) 帰国

3. プログラム記録写真



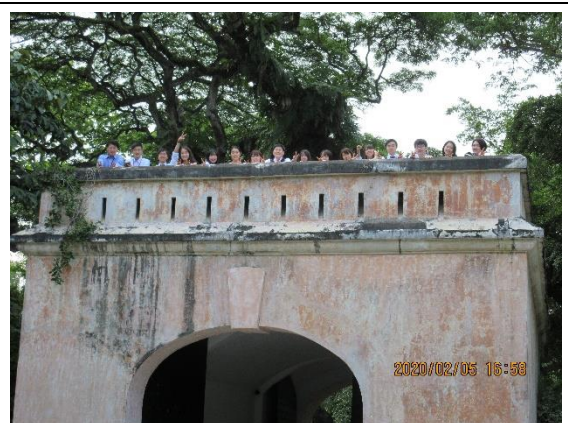
2月5日(水)
【オリエンテーション】
JTBアジア・パシフィック本社



2月5日(水)
【視察】Japan Creative Centre (JCC)



2月5日(水)
【表敬】在シンガポール日本国大使館



2月5日(水)
【視察】バトル・ボックス



2月6日(木)
**【視察】 Mitsubishi Heavy Industries
 Asia Pacific Pte. Ltd.**



2月6日(木)
【視察】 シンガポール日本商工会議所



2月7日(金)
【視察】 現地教育財団視察



2月7日(金)
【学校交流】 シンガポール国立大学



2月8日(土)
【視察】 Marina Barrage



2月8日(土)
【視察】 Gardens by the Bay



2月8日(土)
【ホームステイ】



2月9日(日)
【視察】シンガポール市内



2月9日(日)
【視察】アラブ人街



2月9日(日)
【視察】チャイナタウン



2月10日(月)
【視察】JTB アジア・パシフィック本社



2月10日(月)
【視察】スカイ・グリーン社

	
<p>2月10日（月） 【視察】シンガポール都市再開発庁</p>	<p>2月11日（火） 【成果報告会】</p>

4. 参加者の感想（抜粋）

◆ 大学生（創価大学）

この度は、私たち創価大学生を JENESYS2019 シンガポール派遣に参加させて頂き、誠にありがとうございました。参加前は、ASEAN の中でも群を抜いて経済成長を遂げるシンガポールに赴き、その発展の秘密を詳しく知りたいとの思いでしたが、実際に訪問してみると、想像の何倍も深い学びを得ることができました。現地では、経済発展と環境保全を両立するシンガポールの様々な工夫と努力が見え、大変勉強になりました。日本では考えられないようなたくさんの高い建物が海を反射し、それを囲むように生い茂る青々とした緑の樹々が美しく、国全体が統合されていて、非常に感動しました。写真だけではわからない、シンガポールの魅力を五感で感じることができました。また、シンガポールには日本の食品や製品があちこちに販売されており、日本製品が人気であることを感じました。シンガポール国立大学での学生交流の場においても、日本文化について私達よりも詳しく話してくださる学生さんたちを目にし、感動を覚えました。自分たちでは気づかない日本の魅力を、シンガポールに渡航することで気づくという、不思議な体験をすることができました。JENESYS に参加して、私にとって最も有意義であったことは、本プログラムを通じたたくさんの素晴らしい出会いです。視察先の方々、NUS の学生さん、ホームステイ先のご家族など、シンガポール人の方々の温かい優しさに触れ、多文化共生国家ならではの魅力を感じました。そして8日間を共にした明治学院大学、東海大学からの派遣団員の皆さんとの出会いから多くの刺激を受け、自身の将来設計やグローバル社会での世界市民とは何かについて、考えさせられました。改めて、JENESYS2019 シンガポール派遣に参加させて頂き、大変にありがとうございました。大充実の8日間を通して、多くの成長の機会を頂けたことに、創価大学派遣団一同、誠に感謝しております。

◆ **大学生（東海大学）**

まず、本事業において多くの方々の支援やご協力に心から感謝申し上げます。

9日間の派遣を終えて感じたことは、期待以上の経験ができたということです。

なぜ私がそう感じたかを、2つの観点から説明します。

1つ目は、内容の濃い企業訪問です。JTB シンガポール支店をはじめとする日本企業やシンガポールの企業など、幅広い企業訪問をすることができ、将来の選択肢が増えました。日本で行われているインターンシップや説明会よりも、様々な情報を知ることができ、大使館にお勤めしている方や三菱重工業の副社長さんなどと直接お話しをする貴重な機会をいただき感謝しています。海外で働くことがどういうことなのか、これからの日本をより良くするためには何が必要なのかを対話の中で考えさせられました。シンガポールという ASEAN 諸国の中では大きな特徴を持つ国で働く現地の人々や、国と国を繋ぐ仕事の偉大さを感じ、私も外交の架け橋のような存在になりたいと強く感じました。2つ目は、シンガポールの人々との深い交流です。まず、大学交流でディスカッションの時間を設けていただき、教育関係について深く知ることができました。勉強や受験に関するストレスや道德教育についてなど意見交換をし、日本が現在抱えている問題の解決に繋がるアイデアを得ることができました。将来、教師を目指す私たちにとってこの時間はとても有意義な時間でした。そしてホームステイでは、民族によって異なる生活様式を体験し、多国籍国家というものを改めて実感しました。私がお世話になったマレー系のご家族は、とても家族間の交流を大切にされていて、たった1泊という短い時間にも関わらず、家族の一員のように接してくれました。私はまたシンガポールに来ることを誓い、この家はシンガポールで1番大切な場所になりました。

◆ **大学生（明治学院大学）**

一番印象深いのは日本好きが多いということです。街中を見ると、多くの日本食レストランや日本のアニメの広告などが目につきました。特に大学交流とホームステイを通じた現地の人たちとの交流の場では、親日家や知日家の方が多いと実感しました。多くの方が日本語を学習しており、日本文化に精通していることがわかりました。日本に対する誇りも感じましたし、日本を海外に発信することに強く使命を感じました。現地の学生の多くが母語、英語、日本語といった複数の言語を操っており、シンガポールのバイリンガル教育の強みを実感しました。さらにシンガポールの学生の一日における勉強時間は3～6時間と聞き、日本の大学生の勉強に対する意識の低さを痛感しました。

また、シンガポールは非常に居心地が良いと感じました。外国人に対して寛容であるという印象を持ちました。多民族国家のシンガポールは異なる宗教、価値観が共生しており、お互いの価値観、言語、文化を尊重し理解しようとするシンガポール国民の姿勢を感じる取ることができました。昨今、日本でも外国人と関わる機会が増えていきます。一方的に日本を説明するのではなく、相手の国のことや価値観もしっかり理解し、敬意を持って交流していこうと思います。

5. 受入れ側の感想（抜粋）



◆ シンガポール日本商工会議所

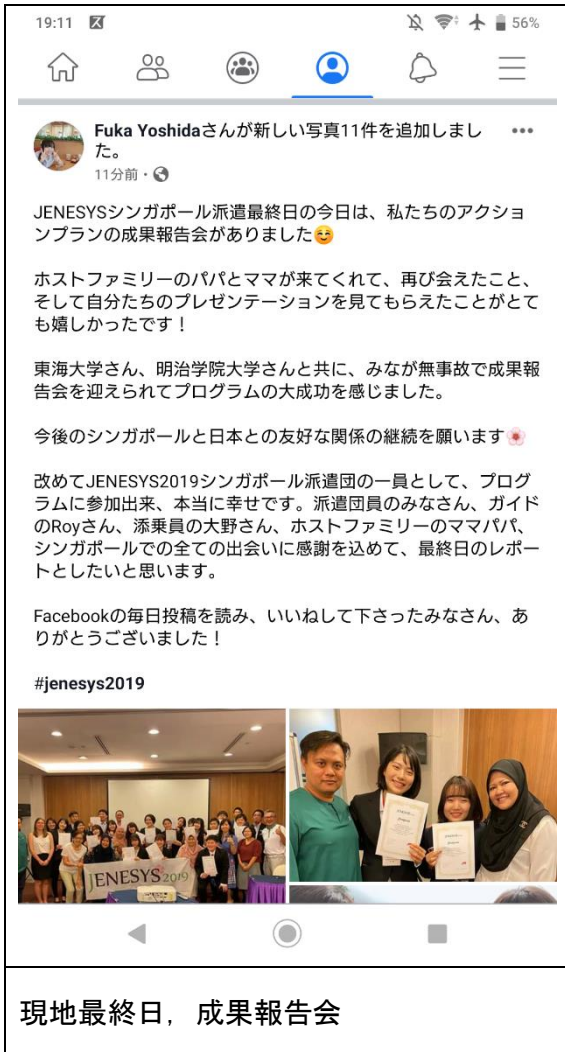
シンガポールにおける日本商工会議所の概要、活動内容、進出企業の活動例を中心に説明を行いました。参加者の約7割が日本人として将来海外で働く事を希望されており、また3年生・4年生が多かったので就職活動に絡めたアドバイスが出来非常に有意義な内容となった。

◆ ホームステイ受入れ先の家族

日本の学生をホームステイで受け入れた事がなく、とても貴重な経験であった。1泊のホームステイは少し短く感じたが、日本人学生がすぐ溶け込んでくれ、まるで私たちの娘のように感じた。今回のシンガポールファミリーとの滞在を貴重な経験として日本に帰ってからも活かして欲しい。

6. 参加者の対外発信

 <p>Rina Fujita Just now · 🌐</p> <p>#jenesys2019 Day6 🇸🇬</p> <p>本日は視察メインでリトルインディア、チャイナタウン、ブギス・ストリートに訪問しました。</p> <p>実際に現地に足を運び、多民族国家と呼ばれるシンガポールの意味を知ることができました。それぞれの場所でとても風景が変わりまた新しいシンガポールの一面を知ることができました！</p> <p>残り2日となりましたが最終日に成果報告会があるので、みなさまにこの8日間で学んだことをより鮮明に伝えられるようにしたいと思います。</p>	 <p>23:08</p> <p>Yosuke Suzuki 2 hrs · 🌐</p> <p>🇸🇬 Singapore Post 🇸🇬</p> <p>Today I visited Sky Green, an urban farming firm developing vertical farming towers. Of Singapore's land area, only 1 percent of the land is used for farming. And the country is heavily reliant on imported food. And the vertical farming system is an innovative solution to secure sustainable food resources.</p> <p>都市型農業のシステムを開発している現地企業のスカイグリーン社に行ってきました。直立のタワーで効率良く農作物を育てることに成功した企業です。シンガポールは食品の多くを輸入に依存しているので、スマートに食品の輸入依存を解決することに力を入れています。</p>
<p>多民族国家シンガポールを代表するエリアより発信</p>	<p>スカイグリーン社より発信</p>



7. 報告会での帰国後のアクション・プラン発表

Conclusion

①Workshop
in our
university

②Discussion
abroad

③SNS

SNS

When After going back to Japan

To whom World

Purpose Promoting

- Japanese culture
- (Four seasons and seasonal events)
- What we learned by visiting Singapore

アクション・プランの発表 (創価大学)

- ① 創価大学で、今年の4月から5月に、アジア研究会や社会に向けて、自分達がシンガポールで学んだ事に興味関心を向けるような内容を発信していく。
- ② 各自が、諸外国の学生に向けて、アジアについて関心と理解を深めてもらえるようにSNSを通し情報を発信する。また、話し合う機会を持つ。

アクション・プラン：日本に帰国後、世界に向けて、日本文化（四季やイベント）、また、シンガポール訪問で学んだ事に興味を持つようなSNSを投稿する。

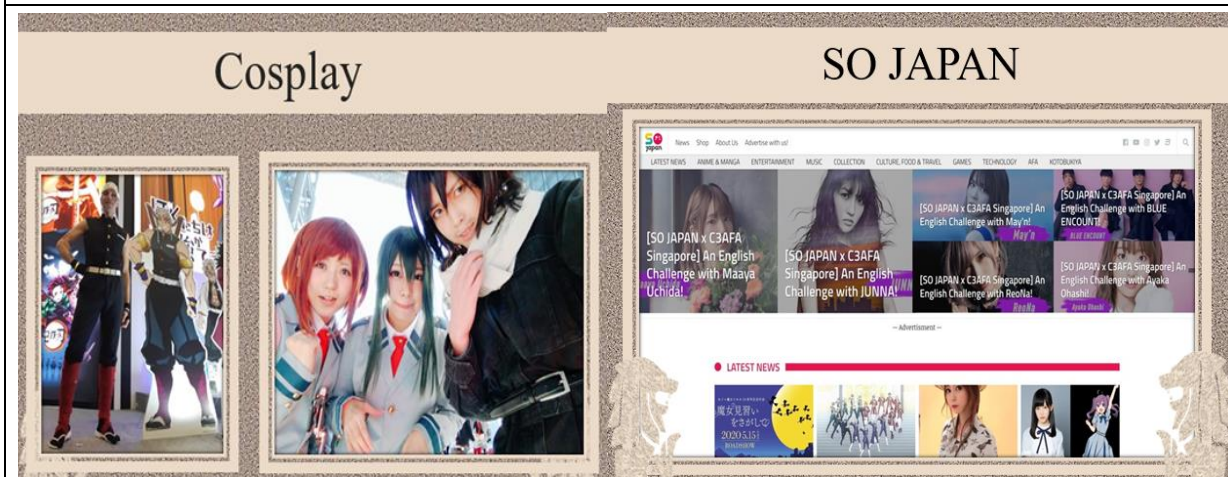


アクション・プランの発表 (東海大学)

① 大学交流のディスカッションで教育関係について深く知ることができた。学費，体力，教育について考察した。特に，道徳教育の大切さを学んだ。

私達の意見：先入観なしに心を開く事・自分自身で考えて，答えを見つける事。

アクション・プラン：道徳教育の大切さをプレゼンテーションしたり，SNS発信をする。



アクション・プランの発表 (明治学院大学)

① 多くの日本食店や日本のアニメの広告が目についた。親日家や知日家，日本文化にも精通している人が多い。

アクション・プラン：Webにアニメ文化の記事を載せる。Youtubeを開設して発信する。シンガポールでの体験を本にする。

事業実施団体：株式会社JTB